

# 金沢市立鳴和中学校 令和2年度 学校経営計画

## 1. 校訓・教育目標

校 訓 「自治 責任 協力 奉仕」

教育目標 「創造的で、豊かな人間性の育成をめざす実践教育」

- (1) 自主性、自立性を高め、よりよい集団生活ができる生徒の育成
- (2) 主体的に自己を確立し、高い知性と豊かな情操を備えた生徒の育成
- (3) 自己の言動に責任をもち、たくましい体力と実践力をもった生徒の育成

## 2. 教育方針

- (1) 人間尊重の精神の涵養に努め、たくましく生きる力を育む教育を推進する。
- (2) 組織的な教育力の向上に努め、「安心・信頼・満足」できる学校づくりを推進する。

## 3. めざす学校像、生徒像、教師像

### (1) めざす学校像

- ①安全・安心な学校
- ②信頼される学校
- ③創造性あふれる学校
- ④明るく活気に満ちた学校

### (2) めざす生徒像

- ①学習習慣を身につけ、自ら進んで授業に参加する生徒
- ②自分を知り、自分の生き方を見つめ、積極的に将来を考える生徒
- ③他を認め、協力することにより、楽しい学校を創り上げていく生徒
- ④正しい言葉遣いで、自ら進んでその場に応じた挨拶ができる生徒
- ⑤きれいな学校づくりを常に心がける生徒

### (3) めざす教師像

- ①法規を遵守し、生徒や保護者・地域の模範となる教師
- ②生徒理解に努め、生徒と響き合える教師
- ③自己研鑽に励み、魅力ある授業づくりに努める教師
- ④健康・安全に配慮し、気力・体力ともに逞しさを育む教師

## 4. 経営方針

### (1) 基本理念

- ①生徒一人一人の良さや可能性を引き出し伸ばせる教育
- ②生徒一人一人に応じた指導が保障される教育
- ③生徒が人としての生き方や在り方を学べる教育
- ④生徒が共に生きることの大切さを理解し尊重し合える教育
- ⑤生徒を家庭や地域と協力して育てられる教育

### (2) 学校運営

- ①全教職員による学校運営  
教職員の明確な役割分担のもと、一人一人が責任を果たし、全教職員の力を結集して、教育目標を達成する。
- ②学校の組織化、機能化  
主任・主事を核とした校務分掌の組織的機能的な展開を図るとともに、迅速・確実な連絡態勢で機動的な展開を図る。
- ③教職員の業務適正化  
生徒と向き合う時間を確保するとともに、教職員の長時間勤務の改善を図る。
- ④教職員の心構え
  - ・生徒一人一人の人格を尊重し、資質と能力の向上のために全力を尽くす。
  - ・生徒の指導には、愛情と信頼を基本に、「生徒指導の三機能」を重視してあたる。
  - ・本校教職員としての自覚と責任をもって職務遂行に努め、同僚性を構築する。
  - ・自ら研修に励み、専門性や指導力を高め、信頼される教師となる。

## 5. 中期目標と方策

金沢市学校教育振興基本計画の基本理念に基づき、金沢型学校教育モデルを実践していくため、具体的な方策を掲げ、めざすべき金沢の子ども像を具現化していく。

### (1) 基本的な生活習慣の確立

小学校や家庭と連携して基本的な生活習慣の確立を図るとともに、規範意識を高め、主体的に社会参画しようとする態度を育む。

### (2) 確かな学力の育成

- ① 学習規律の定着を図るとともに、基礎的基本的な知識及び技能を確実に習得させる。
- ② 学習意欲を高める授業改善を推進するとともに、言語活動の充実を図りながら活用力を高め、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育む。
- ③ 学力調査や学校評価等を活用し、検証と継続の可能な教育実践を展開する。
- ④ 将来への夢や希望をもつとともに、進路実現に向けた教育実践を展開する。

### (3) 豊かな心と健やかな身体の育成

- ① 人権を尊重する心情や道徳的価値観を育み、主体的に実践しようとする態度を育てる。
- ② 体力向上や心身の健康の保持増進及び安全に関する指導の充実を図る。

### (4) 学校力、教師力の充実

- ① 校内研修や金沢市教職員研修等を通して、指導力の向上に努める。
- ② 若手教員早期育成プログラムによるOJT体制を活性化させる。
- ③ 特別支援教育や教育相談の充実を図り、全教職員による支援体制を構築する。
- ④ 家庭・地域との連携を推進し、小学校、高校、大学や関係機関との連携を促進する。

## 6. 今年度の重点的な取組目標と具体的な方策

### (1) 安全安心な学校づくり・・・生徒会活動を通じた生徒自治の推進

- ① 学校生活のあらゆる場面で、規範意識の醸成を図る。
- ② 「生徒指導の三機能」を生かしながら生徒との信頼関係を構築する。
- ③ いじめや不登校などの諸問題の未然防止と早期発見、早期対応を行う。
- ④ 生徒会活動や学級活動、部活動等における生徒の主体的活動を促進する。

### (2) 確かな学力の育成・・・主体的・協働的な授業づくり及び家庭学習の定着

- ① 学習規律の継続的な向上と学習習慣の定着を図る。
- ② 課題と整合したまとめを工夫することで、わかりやすく、達成感のある授業づくりに努める。
- ③ 単元計画を意識して主体的・協働的な場面を工夫することで、知識・技能の習得とその活用による思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- ④ 学力調査の分析結果を指導法改善に活かし、家庭学習や補充学習の充実により、一人ひとりの学びを着実に進める。
- ⑤ 各教科や総合的な学習の時間において、地域の教育資源を積極的に活用する。
- ⑥ 特別な支援を必要とする生徒に対しては、個の状況に応じた学習指導を実施する。

### (3) 豊かな心と健やかな身体の育成・・・心身の健康づくりと道徳的実践力の育成

- ① 道徳、生徒会活動、学級活動、学校行事、清掃や奉仕活動等を通して、人権を尊重する態度や道徳的な実践力を育てる。
- ② あいさつ運動を推進し、さわやかなあいさつを交わせる雰囲気づくりに努める。
- ③ スポーツテストの結果等から体力面の課題を明確にし、保健体育の授業や部活動を通して体力の向上を図る。
- ④ 金沢市健康教育推進プラン2020に基づき、「心の健康」に重点を絞り、健康教育計画に基づく心の教育や健康相談活動の充実を図る。

(4) 学校力、教師力の充実・・・各種研修の場の充実と開かれた学校づくり

- ①若手教員早期育成プログラムによる校内研修を計画的に開催し、教員の指導力向上や教師集団としての力量の向上を図る。
- ②小中一貫教育の推進や関係機関との連携を通して研修の充実を図る。
- ③特別な支援が必要な生徒への理解を深め、個別支援計画に基づき、指導・支援する。
- ④家庭、地域、小学校と連携し、規範意識の向上及び生活習慣や家庭学習の定着を図る。
- ⑤各種調査や面談等から保護者・地域の意見を把握する。また、学校の方針や活動等の情報を定期的に発信し、学校と家庭・地域との信頼関係の向上を図る。
- ⑥ユネスコスクールとして、「ESD（持続可能な開発のための教育）」を推進する。

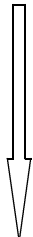
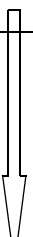
7. 具体的な方策の工程表

【1学期〈基礎〉】

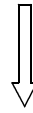

月	学校行事及び学習評価	学校評価	学校経営具体的方策
4	職員会議 始業式・入学式 1年学習到達度確認問題 2年進級テスト 3年県・全国学力調査	<b>P 教育目標設定</b> ・目標、評価計画策定	・学校経営ビジョン説明 ・学級学年経営計画、 学校研究計画立案 ・校内自主研修講座開催 (年間10回程度)
5	授業参観・育友会総会 城北地区小中一貫会議 部活動の日・春季大会 1学期中間テスト	・授業参観アンケート  <b>D 実践</b>	・教育方針等説明
6	小中一貫教育の日 3年実力テスト 加賀地区大会(県体予選) 1学期期末テスト	・本年度方針計画に基づく 教科・学年・各分掌 等での取組  ↓	・取組状況の把握と指導 ・学校評議員会①
7	合唱コンクール 1学期終業式 通知表渡し 金沢「絆」の日	<b>C 中間検証</b> (教職員・生徒・保護者)	・学校自己評価 ・中間検証と改善  ↓
8	2学期始業式 1～3年実力テスト	・アンケート集計 ・結果分析と改善策立案	・学力調査結果分析及び 改善策の立案

【2学期〈向上〉】

月	学校行事及び学習評価	学校評価	学校経営具体的方策
9	運動会 秋季新人大会 鳴和校区小中一貫各部会 生徒会役員選挙 3年実力テスト	<b>A 改善を要する事項 の実践</b>	・学校評議員会② ・学校関係者評価委員会①
10	授業参観・スクールフォーラム 2学期中間テスト 修学旅行・遠足・自主プラン 全市一斉公開研究 金沢「絆」会議	・中間検証結果の説明 ・改善策を含めた対応  ↓	・学校の取組説明 ・取組状況の把握と指導  ↓

1 1	文化祭 3年統一テスト 中学生文化創造夢空間 全市一斉公開研究 2学期期末テスト	 <b>C 検 証</b> (教職員・生徒・保護者) ・アンケート集計 ・結果分析と改善策立案	 ・学校自己評価 検証と改善
1 2	3年実力テスト 人権週間学習会 2年県評価問題 通知簿渡し・三者懇談 2学期終業式		

### 【3学期〈充実〉】

月	学校行事及び学習評価	学校評価	学校経営具体的方策
1	3学期始業式 3年統一テスト 1、2年実力テスト 1、2年授業参観 鳴和校区絆活動	<b>C 検 証</b> 	・取組状況の把握と指導 
2	私立高校入試 3年学年末テスト 新入生説明会 1・2年学年末テスト 鳴和校区小中一貫全体会	・最終検証結果の報告 <b>A 次年度への改善案</b> ・検証結果に基づく 次年度取組の検討	・学校評議員会③ ・学校関係者評価委員会②
3	公立高校入試 卒業式 3学期終業式	・次年度取組の確定	・次年度教育課程の編成

## 8. 教職員の業務適正化に向けた具体的な取組

### (1) 時間外勤務時間の縮減に向けた達成目標

- ①時間外勤務時間の平均が、前年度の同じ月と比較して減少する。
- ②令和3年4月以降は、時間外勤務時間が月80時間を越える教職員をゼロにする。
- ③今年度は、時間外勤務時間が月90時間を越える教職員をゼロにする。

### (2) 学校が行う具体的な取組

- ①最終退校時刻の目標を20:00とする。
- ②毎月1回以上の定時退校日を設定する。
- ③8月11日(火)～17日(月)を学校閉庁日とする。
- ④部活動休養日の確保等
  - ・原則、土曜日または日曜日の1日と平日の1日の週2日以上を部活動の休養日とする。
  - 長期休業中の週休日は部活動を行わない。ただし、5～7月は、部活動の充実のために上記の原則を超えた活動も可能とするが、生徒や保護者の理解を十分に得ること、休養日の振替を行うこと、次に定める年間休養日の設定日数を必ず守ることとする。
  - ・年間を通しての土曜日・日曜日・祝休日における休養日を52日以上に設定する。
  - ・平日の活動時間は2時間まで、学校の休業日における活動時間は3時間までとする。
- ⑤作成資料や電子データの共有化を図る。校内サーバー内での保存ルールを統一する。
- ⑥各種会議や校内研修会の実施方法を工夫する(回数・制限時間・資料事前配布等)。
- ⑦運営委員会を中心に、日課、行事や校務の見直しを積極的に進める。